２００６年９月　ブルガリア遠征　ドジ&ラッキー集

最終編集　２００６年１０月４日

日時　　２００６年9月１０日（日）～１８日（月）
遠征場所　BULGARIA
　　MONTANA　VRACA　Kom　SOPOT
メンバー　森、河島、佐藤、滑川、永井(香)、岡部、村松、永井
現地で　　平木、アンゲル、アニー、バレリー

ブルガリア　て、どこ？

最初に遠征先を聞いたとき　頭に浮かんだのは
ヨーグルトの国！！　琴欧州の国！！
気候は？　寒いか、暑いか、　どんなもの、着れば　？
電源コンセント形状はＣ、　電圧は２２０Ｖ　　時差は６時間　　政体は共和制
お金はレフ（レヴぁ）　　人口７５０万、　　面積は日本の１/３
首都はソフィア　　ブルガリア語　　これだけ調べて　後は　お任せすることにした。

成田発１２：００＝＝＞モスクワ着１７：２５　時差５時間　「実質　１０時間２５分」
モスクワ発１９：５５＝＝＞ソフィア着２１：５０　時差１時間「実質　３時間」
ソフィアから約３時間で　最終目的地　モンタナの町
以上が予定時間。
静岡を５時に出発したとすれば　到着が翌日の１：００　時差６時間で　**実質２６時間**
さあ！　今回はどんなドジが待っているでしょう。

このフライトが、、

どこで飛んでも平気と自負している面々ではあったが共通の心配フライトが一つある。
時間、金額共に最適な AEROFLOT を選んだのはいいが、つい最近“**墜落**”している。
Ilyushin　Tupolev　なんて聞きなれない機体名も馴染みがない。
案の定、出発は１時間送れから始まった。
しかし、成田で乗ったのは BOEING767、モスクワで乗ったのも BOEING。帰りのソフィアーモスクワ間で Ty-154M モスクワからまた BOEING767 とほとんどがおなじみの機体でとりあえず“ほっ”とする。
しかし、ロシア人乗客の多い路線では**ランディング毎に盛大な拍手**が起こるのに閉口。
そんなに正常なランディングがめづらしいのか？　ほっとしたのか？　嬉しかったのか？。
そして、アルコール類は残念ながら“有料”（可愛いワインが　３～５ユーロ）。

===第一日目（９月１１日）===

このやろう！

朝ホテルの朝食で、コーヒーが旨い。　　が、　残念ながら量が少ない。
デミカップに半分しか入っていない。
ボーイに　“もう１杯コーヒーを！”　と言ったM松をじっとみてボーイが
静かに頭を横に振り　カウンターに戻っていく。
コーヒー１杯の追加も出来ないのかと“むかー！！”とするM松。
が、　しばらくすると　コーヒーが出てくる。
そうそう　ここブルガリアでは　Yes　No の**頭の振り方が違う**のです。
　Yes ==＞“頭を横に振る（日本流に　**いやいや**　と）
　No==＞“頭を縦に振る（日本流に　**うんうん**　と）
この風習は１週間や１０日の滞在では習得できませんでした。
いや、最後まで　納得できませんでした。

ジプシー１

僕らの車を運転してくれるブルガリア男性がホーンを鳴らし、助手席に座っている私のひざを叩く。　“見ろ！ミロ！”　と。
道路際にほとんど水着（いや、水着より面積の少ない）の**美女**がいる。
“ジプシーだ！　今日のフライトで３５ｋｍ飛べばここに下りられるよ、
回収車が来るまで楽しいよ“　だって。　　あわててＳ藤が　”どこ？“。
“もっと早く教えてよ！”と言うが、何時も教えてもらったのは過ぎ去ったあと。最後まで文句言ってたが、彼の場合、不利な条件がある。
車に定員以上乗せるため、“デブ”が助手席、後ろは大小混ぜて４人、だから**小**はサンドイッチ状態で真ん中に挟まれ窓から遠く、外が良く見えないのだ。

ローカルフライトとは

ブルガリア到着第１日目、ＡＶＡ工場の見学を終え、東風に適したエリア
VRACA に向かう。“今日は疲れているから**軽くローカルフライト**にしよう”
と言うＮ井に“風に乗って MONTANA 方面に行くほうが楽です。どうせ帰り道だから拾いながら戻れるし、、”とＨ木女史が提案する。
ＴＯから MONTANA までは約４０ｋｍ。（TO から２０ｋｍほど山脈が続き、以降平地の中に村と丘が点在している）。
ＴＯ(1,050m)前の平地（ＬＤあり）からはグランドサーマルが　もこもこ、
最初の谷(2～3km)超えに必要な高度(1800m 超)を稼ぎ真っ先にMが消えてゆく
続いて、Ｓ藤、M松が谷越え、山脈ハイウエーにと続く。

今日の“**軽く**”の結果は

Ｋ島：８０ｋｍ（MONTANA の街を超え ROMANIA との国境
近くまで）

Ｎ井：４０ｋｍ（MONTANA の街にある AVA 工場まで）

Ｈ木：４５ｋｍ（MONTANA の街から折り返し）

Ｍ　：２６ｋｍ（平地の中の街を越えて）

Ｍ松：２１ｋｍ（山脈が切れ、平地で上げそこね､）

Ｓ藤：２１ｋｍ（同上　まったくＭ松と同じ場所に）

疲労骨折？

“シップ薬ない？”　“タイガーバームならあるけど！”　“それでいい”
４時間近くのフライトを終えたＫ島が足をひきずりながら現れた。
MONTANA の町を越えたときまだ十分高度があった。ＧＰＳに地図も入れて
あるし、日本から持ってきた国際電話の使える携帯もある、もう少しいける
ところまで行ってやろうと思い北に向かって進んだ。いざという時のために
メイン道路を目の端に捉えながらどんどん北上する。正面に大きな川が現れた
そこまでが限度だろうと思いながらフライトしたが手前でとうとうＬＤする
ことになった。　と軽く報告しているが。

川とは **Danube（ドナウ川)、ブルガリアとルーマニアの国境**

本日のＴＯ　VRACA から１００ｋｍ近くはある

調子よく越えてしまったら、**密入国**。いやパスポートをホテルに預けてあるから
テロリストとみなされるかも、　いづれにしても初日から危険人物　発生。
モスクワ～ソフィアのフライトより長かったのだから疲れて当然だろう。

道が違う、話が違う

Ｍの後を追いかけたＳ藤、Ｍ松は山脈の切れたところで“うじうじ”していた。
ここから先どうすりゃいいんだ！。　はるか彼方に MONTANA の湖が見え
そこまでなだらかな牧草地が続き、何筋もの道路が湖に向かって走り、所々に
村落、林、丘、川、池がある。　まづ、ここで上げられるだけ上げるべきとは
思うものの、バサバサと音を立てるグライダーに急き立てられ、飛び出してし
まった。今朝来た道路に沿って行けといわれているが、どれがそうか？自信なし。
ＴＯ前にしっかり地図を見ておくべきだったと後悔しながら風下の道路を目で
追うと湖まで到達している。これでいいや、と道に沿いながら村落を越えるが、
高度はじわじわ下がるのみ。川を越すのも可能であったがそこは林が多い、
で、安全とって手前の道路沿いをＬＤ場所と決めた。
上空を見るとＳ藤機がまったく同じコースを取りながら下りてくる。

“その辺の牧草の高さはどれくらい？”と無線が入ったので、道路横牧草を
見ながら“腰までだよ、ＬＤに問題ないよ”と返事する。　が、ＬＤしたとたん
Ｓ藤機はグライダー、人間共にすっぽりと草の中に沈んでしまった。
（俺は“うそ”言ったんじゃない。**もぐってしまうＳ藤**が悪いんだ）
と自分に言い訳する。
この道はMONTANAに行くことは行くが、目標道路（国道１号）ではない。
地上同士の無線交信はなかなか出来ないのでそのころMONNTANA近くを
飛んでいるＨ木女史が中継しやっと回収してもらうことが出来た。
“正規の道に下りてくれ！”と回収車から文句。“**俺も違うと思ったんだけど**
つられてしまった“とＳ藤。　くそ！かたきとられたか。

クイズ

トイレの入り口に　“DAMEN”　“HERREN”　と書いてある
さて、　どちらが“**男性**”、どちらが“**女性**”でしょう

馬車

実に馬車が多い。首都のSOFIAでも道路をポコポコ走っているが、VRACA
のＴＯに上がる道路（舗装してある）には証拠の“うんち”が切れ目無く
続いている。乾燥しているためあまり臭いはしないが、車はよけきれず、
車輪で粉砕し埃となって空中に漂う。見にくくなったフロントガラスをきれい
にと、ワイパーを動かすと、ウオッシャー液でこねられた埃は**黄色の原材料**
へと戻っていく。

薪ひろい

そしてこの馬車（圧倒的にロバであるが）は後ろの荷台に薪を積んで山
を下っている。小便にＴＯ近くの林に入ると枯れ木などは一切残っていない。
きれいに拾い集められているようだ。
民家の周りでは斧で薪割りしている様子、出来た薪を積み重ねた山があちこち
で見られる。

===第二日目（９月１２日）===

再び

昨日に続きVRACA ＴＯ。　早くＴＯした組（Ｋ島、Ｈ木、Ｎ川、Ｎ井、
Ｏ部、Ｍ松）は条件がいまいち。　あげきれず、ＴＯ前のＬＤに、、、沈む。
スタチンして時間を十分とったＭは好条件にめぐまれ高度を稼ぎ始めた。
2,000mを確保し　“行って来ます”と消えてゆく。

Ｎ井、Ｓ藤も順次高度を確保し“そろそろ行こうか！”とＮ井。しかしＳ藤の機体は翼端を折りじわじわと高度を下げ続ける。“どうしたの？”　**“怖いの！”**
２本目を飛ぼうと上がってきた先行組は、この無線の会話を聞きながら“なんて贅沢なやつだ”　と怒っている。
このときからこのツアーでは　**“翼端折禁止令”**　が発布された。
２本目のＨ木はすぐＮ井に追いつき、２機共に高度 2,000m で雲底を出たり入ったりしながら MONTANA 方面に走り出す。続いてＯ部、M松が上げ始める。
２本目でスタチンしたＮチャン再度試みるがどうしても浮かない。残念ながらＫ島付き添いで車下山となった。
Ｋ島曰く　“私はもう昨日で十分目的を達成したからいいの！”　だって。
この日の成果

Ｎ井：３９ｋｍ（MONTANA の街入り口にあるローター）
Ｈ木：３７ｋｍ（MONTANA 手前のジプシー）
Ｍ　：３３ｋｍ（山脈を越え、平地のど真ん中）
M松：２３ｋｍ（山脈の先端ちょっと）
Ｏ部：２０ｋｍ（山脈の先端）

ブレークコード

今日は何か失敗して時間を浪費したおかげで好条件にあたった人が多かった。
グライダーをきれいに立ち上げたＳ藤、“あれ？”と考えているうちに そのまま前にシュートしスタチンとなる。**“ブレークコード持つの忘れてしまった！“**らしい。でも、おかげで好条件時間にあたり翼端折するくらいあげることが出来たのだ。
そういえば昨年**７３歳**のフライヤーがブレークコード持ち忘れて華麗（加齢）にＴＯしてたっけ。　　そろそろＳ藤も、、、、、、か。

スタチン、でもうれしい

長距離走り続け、もう少しで空中に浮くはずだったが、、、スタチン。
ＴＯまでの長い登りでふらふらになり、気がついたらヘルメットを忘れ再度往復、２本目の再ＴＯまで長時間を要したが、おかげで好条件タイムにあたり大成功のM。

そっちは違うよ

最後に２機ならんでスタートしたＯ部、M松機はやはり昨日と同じ山脈先端で上げ損なっている。　昨日方向を間違えたM松は学習効果あり１号線方向を狙っているが、Ｏ部機は西日の当たる尾根につられて左へ回り込んだ。

“そっちは違うよ！”と無線するが、時すでに遅く回りこんだ風のためどんどん高度を下げている。上空から、いまにも林の中に埋没するのではないかと心配しながら、最終ＬＤを見届け回収車に連絡し１号線沿いに走ったが、昨日＋ちょっとで残念ながらＬＤ。

怖い怖い病

今回のＮ川はおとなしい。あの民宿の屋根からＴＯした頃の覇気がない。
１月の台湾では早々と目標達成し、後の組が必死でもがいているのを横目に
“僕はもういいの！”とＴＯで昼寝してヒンシュクをかった度胸もない。
“翼端折禁止！”などと騒いでいるが、超安全運転に心がけている。
彼女でも出来たのかな、、、、、。

ジプシー２

Ｈ木女史の下りたところが、いつもジプシーが屯しているところ。
回収車が止まると、美人が下りたところを指差して教えてくれた。回収に行く振りしながら、近くまで、、、、行って　ちらちらと。通過する車の中からみると超美人も接近すると厚化粧はともかく、超デカイ（高さ、太さ、ボリューム感）またもや、見そこなったＳ藤に“でかすぎるからやめたほうがいいよ！”と教えてあげたが、　“俺は、**でかいのが**　好きなんだ”　だって。

===第三日目（９月１３日）===

市長さんと

遠来のお客様のために MONTANA の市長さん(TODOR VARBANOV 氏)がお茶会を開いてくれた。
日本人が来たのがめづらしい、次次回（再来年）のパラグライダーワールドカップ開催をこの MONTANA でやりたい、そのため来年の岩屋での大会に行ってみたい。などの条件も重なったようだ。でも皆さんご承知のようにフライヤーの正装は、**短パン、はだしにサンダル履き、スニーカー、Ｔシャツ**、が普通。
で、**背広、ネクタイ**の市長さんと記念写真となった。でも、市の広報誌に載っている広告もくだけたものだから許してくれるでしょう。
（美女？が５人、きれいなお尻をだして並んでる。なんの広告か？ブルガリア語だからわからない、読める人は MONTANA 市広報雑誌参照ください。）

Kom のＴＯ

お茶会のあと、Kom 山(2,016m)に向かう。ＴＯは山頂より少し下（でも 1,900m はあるでしょう）ここからＬＤまで高度差１，５００ｍ、ブルガリアの大パノラ

マが広がっている。後方１０ｋｍに**セルビアとの国境山脈**が連なっている。
“**パスポート持っていない**のだからくれぐれも国境は越えないように”と注意される。特にＫ島へ。　“風が弱いと出られない”といわれるように数人のスタチンを含みながらも、全員ＴＯ。雲の吸い上げなどでしばらくＴＯ上空で遊び、これでもか！！というくらい**長い直線飛行**でＬＤのある村に向かった。

アウトランディング

直線飛行の後、村の上空をＬＤ場に向かってくる２機（高度、位置ほぼ同じ）がある。　しかし１機はみるみる後に残され高度も下がっていく。
ＬＤに到着したのは世界のＨ木女史。　無謀にも同じコースを取ろうとしたＯ部機はＬＤ前の溝を避け（届かないので）果樹園の中に消えていく。
“機体と腕が違うだろう！”とは、ＬＤ場の皆の意見。
ここだけではないが、どこのＬＤ場にも大きな牛、馬、羊、ロバの糞がある。
直接踏むのは避けるが、ここ数日で皆のグライダーには糞（運）が滲みこんでいる。　多分果樹園には糞が無かったのだろう、**Ｏ部機の“うん”の付が悪くなった**ようだ。

悪がき

Kom のＬＤ（サッカー場）にめづらしい日本人フライヤーが降り始めるとどこからとも無くマウンテンバイクに乗った悪がきが集まり始めた。
英語を話すのが１名、あとは何を言ってるのかわからないがボディーランゲージ。
しつこくまとわりつかれたＫ島“うるさい！いい加減であっち行け”
“空手の勝負しよう！”と挑戦されたM松は腕相撲でかんべんしてもらう。
“琴欧州、相撲”と聞いてみたが、知らないようだ。
ついでに“日本”と聞いてみたが　“？？”　どこにあるか、知らないみたい。

教会

ＬＤ近くに古くからの、由緒正しき教会がある。見学、お参りをしてさわやかな気持ちになって入り口に戻ると、**教会経営**のモツ煮とビールを売っている店があった。　（モツ煮のようなスープで旨い、ブルガリアの評判料理）
当然のごとく収穫祭の開催となった。　いいのかな？

洞窟

１７時閉鎖の１分前洞窟に着いた。この洞窟は VRACA のＴＯから MONTANA に向かう時の最初の難関（谷超え）の谷底道路を登ったところにある。
今回のブルガリア遠征においてＮチャンの第一目的がこの洞窟探検であるとの

こと、第二目標がダイビング、第三目標が若いブルガリア男性、第四が、、、
パラのフライトはなかなか順番が出てこない。
かわいいブルガリア女性がブルガリア語で説明、バレリーが英語に、H木女史が日本語に。で、　やっと理解したとき、ガイドの女性は先に行って居なくなっている。

===第四日目（９月１４日）===

スカイダイビング

冥土の土産に、とM、**園児の土産**に、とNチャン、二人が挑戦することになりました。
注意事項を聞いた後、レディーファーストにてNチャンが 3,000m の彼方に消えてゆく。爆音のみすれど青空に溶け込み下からはほとんど確認できない。
飛行機から飛び出した直後“海老ぞり！”と言われ、手足を伸ばす。頭をグーと後ろにそらした瞬間ゴーグルが吹っ飛び、眼鏡も風にあおられかろうじて額に止まる。“眼鏡、眼鏡！”と騒いでいるうち 200m 落下、パイロットのゴーグル借りているうち　500m 落下　“**目の開けている時間が少なかった**から、あ！という間に下りたようで怖くなかったわ！“　だって！
“最初の落下は圧力調整出来ず耳が痛かった。パラシュート開いてからブレークコード引かせてもらったので、**スパイラルし**ようと思ったら、止められてしまった”　と　M。　両者共に“怖い”という神経がないようだ。
特別割引料金は　**５０　ユーロ**　　安い！！！

セスナ運転

AVA の社長（アンゲル）の運転するセスナの助手席に乗せてもらい空中散歩した。
安定飛行となってから操縦桿をにぎり生まれて初めての飛行機運転を経験する。
あまりに軽く制御できるのでびっくり、特に操縦桿を前に倒した時の機体のつんのめり状態が怖かった。
“今回サービスだよ！”で　**料金無し**。もうけたのは　S藤、K島、M松、N川

こんなのドジに入らない

H木女史がK島に“ちょっとお金足りないから貸して！”と軽く言う
K島　“いいよ”　と、しばらくもぞもぞ、　車のところまで行ってから
　　“財布をホテルに忘れたみたい、他の人から借りて！”
H木、N井、S藤　“にやにや、、、、、”　“実はこれ拾ったの！”
K島　“あ、　俺の！”　　“どこで？”
H木　“飛行場の真ん中で”

Ｎ井　“ドジ集の題材が出来たな”
Ｋ島　“こんなの俺のドジに入らないよ、俺の場合いままでのパラツアーで
　　２回もパスポート落としてるから　そっちのほうがドジだと思うよ“
それって、**ドジの上塗り**にならない？

墜落、救急、病院

いままでと違い風が西っぽい。MONTANA 近郊のエリアがよいかも知れない
と行きかけたが、やはり VRACA がいいだろうと１～２日目のエリアに行く
ことになった。このＴＯは東風用といわれているがほとんど北を向いている
ため東風の場合右からの横風ＴＯとなる。今日は時々真正面から風がはいり
いままでよりＴＯしやすそうな感じ。途中で拾った地元フライヤー“まさる”
君（日本の商社と関係有り、日本語べらべら）が最初にＴＯ、続いてバレリー
Ｈ木女史とＴＯし上空で待ちの態勢に入る。グループトップでＯ部がグライダー
を広げ、Ｓ藤、Ｍ松が順番を待つ。　正面からの風を受けＯ部がＴＯしスロー
プ先端まで来た時、急な東風を受けた。連続して見ていなかったので詳細は
不明であるが、一旦東（向かい風）を向きそれから西（追い風）に向いたのか
又は直接西だったかかも、、（西方向（進行左）のままだと山頂が続きＴＯ不可
能となる。）　“あ！”と声がして見たときは高度１０ｍくらいでグライダーを
中心に大きなブランコ状態であった。体が大きく前（西）に振られ続いて後ろ
に振り戻される、次に前に大きく振られたとき、高度なく**地面に足から激突**。
“大丈夫か？”の無線に　“**大丈夫じゃないみたい**！”の返事。
ＴＯ準備を中止し現場に集まると、まばらな潅木と岩と土の隙間に横たわって
いる。潅木はショックを和らげるほど密集していない。せめて岩に激突しなく
てよかったなとハーネスを外し始めるが腰（背骨）の痛さで身動き出来ないよ
うだ。下手に動かすより救急車を！と地元の運転手に依頼する。上空待機中の
Ｈ木女史、バレリー、まさる君も次々と TOP-ＬＤしてくる。救急車到着を待つ
間グライダーの片付けなどを行ったが、思いのほか到着は早く、日本のように
ピーポーと騒がしく走ってこないのが嬉しかった。一番近い町 VRACA の
病院（MONTANA より大きな町のため病院もここのほうがいいらしい）に
行き、我々も病院待機とホテル帰還組に分かれることにした。（筆者はホテル
帰還組のためこの間の詳細は不明。）

誕生パーティー

AVA の社長夫妻（アンゲル、アニー）の愛娘（名前忘れました）の
“誕生パーティーやるから来てくれ！”との招待が前々からあった。
状況としては、そんな気持ちではないのだが、、、　お宅にお伺いした。

残念ながら婚約者らしき人が居てこのツアー参加者中、独身男性の
はかない希望は打ち砕かれたが、アニーの作ったブルガリア家庭料理は
旨かった。感激を体中で表現し**椅子の足を砕き後方に転倒**するＫ島。
２回目の救急車かと心配するが酔っ払いの着地はソフトであった。

===第五日目（９月１５日）===

転院

VRACA 病院では処置が出来ないとのことで、ブルガリアの首都 SOFIA の
大学病院に昨夜のうちに移送されたＯ部を見舞いに行く。
一度に大勢は駄目とのことで、３人づつ病室に入る。痛み止めが効いているのか
本人はいたって元気で“ごめんね！”の後でＶサインを送ってくる。
証拠の写真撮影を終え、ベットの傍らをみると、
日本語＜＝＞ブルガリア語　**対訳指差しメモ**が置いてある。
例）痛い、腹減った、水が飲みたい、トイレに行きたい、大きい方、小さい方
　　ここが痒い、手を握って、きれいだね、そして最後に“**彼氏いますか？**”
　　と、　なんだ、これは。
このメモ見てみんなが大笑いしていく。これだけ元気があれば大丈夫だろう。

保険

このときほど保険の必要性を痛感したことは無い。
“手術が必要なのだが、材料（バナジウム）をスイスから取り寄せなければ
ならない。金の払える保証（保険または現金）がないと手術できない。“
“帰国の時、航空機の椅子を改造し数人分の席をつぶし、看護士付き添いで
帰らなければならない“
“付き添いが必要かも”　“通訳は、、、”　　などなど
そしていつでも保険会社との連絡が出来るように、また契約内容の控えも
準備しておくほうがいいだろう。

忘れた

SOFIA 病院をでてブルガリア中央部にある町 SOPOT に向かう
SOPOT のＬＤ横(540m)からリフトで DOBRILA HUT(1,784m)ＴＯに上がり
飛び出すのだが、右も左も 2,000m 弱の山々が数十キロ連なり目の前はなだらか
な牧草地に転々と民家がありどこにでもＬＤできそうだ。
この雄大なエリアの景色を見て　全員“**Ｏ部のこと忘れ**”ＴＯ準備を開始。
ブルガリアの空を楽しんだ。

痴漢（クイズの答え）

SOPOT のリフト乗り場横のトイレに行ったM松が首をひねる。
左右の２つ入り口にＷＣと記入された下に　“DAMEN”　“HERREN”
と書いてある。（両方とも同じ赤色、マークは無し）
これだと確信しながら　“DAMEN” 側の階段を下り入り口に足を踏み込んだ
とたん、中から若い女性が出てきてばったり鉢合わせ。
しまった！と思い　“ごめんなさい！”とあわてて”HERREN”側に入る。
なるほど**男性用小便器**が設置されている。
こんな大事なこと、、、、他の人に教えるのは　やめとこう！

限界

雄大なエリアを満喫して下りてきたＫ島。ＬＤ場で鼻血を出してしまった。
“空気が乾燥し、埃（花粉？馬糞？）が多く鼻の粘膜がやられたようだ”
と言っていたが、　カミサンと別れて６日目　彼の**Ｓex 無**し　耐久限界
は１週間とみた。

＝==第六日目（９月１６日）===

下山

今日は最後の日、ここで事故はごめん、と安全フライトを目標に昨日のような
夕方のゆったりフライトにしようと決め、１６：００頃まで　観光となった。
ローマ時代の遺跡を見学、地元料理を食べ SOPOT に戻りＴＯまでリフトで
上がるが、まだ風が強い。無理しないでストレートにＬＤを目指そうとＫ島、
Ｎ川、Ｓ藤がＴＯ。最初に到着したＫ島から“届かなくなる可能性がある。
寄り道しないほうが良い”　と連絡有り。続いてM松、M、ぎりぎりで到着。
ＮＮコンビの機体がまだ見えない。ますます風が強くなりＮチャンのＴＯが
難しくなってきた、またこの機体では届かないかも、　と　二人はリフトで
下りることになってしまった。しかし、リフトが動いていない。乗り場まで
下りてみるが、誰もいない。もう、**リフトの営業は終わって**しまっていたのだ。
DOBRILA HUT(1,784m)　ＴＯ(約 1,730m)　ＬＤ(540m)　つまり
グライダー背負っての**１、２００ｍ山道下山**　となってしまったのだ。
それでも、約１時間半のトレッキングで　元気に戻ってきた。

===番外編===

超有名人

Ｈ木女史はブルガリアで超有名人だ。　たしかに、遠い日本からただ１人
女性にもかかわらず頑張って、ツアーで良い成績を上げているのだから。
と、納得してはいたが、　　事実はそれだけではないことが判明した。
第一に：酒が強い、ワインを飲み出したら　止まらない。軽く３本だ。
　　ブルガリアの男性フライヤーは、**酒でも敵わない**。
　　今回のツアーでも対抗できたのは、Ｋ島、Ｎ井くらいか、、、！
次に　：声が大きい、いや、**よく通る**
　　SOPOT の町で最後まで飲んでいたＨ木女史の帰ってきたのが２時。
　　１００ｍはなれたホテルの部屋の中から　わかった！　らしい。
第一日目の MONTANA でのホテルの１室で３次会が始まった。
Ｈ木女史はホテルのフロントに行き、缶ビール（大きいやつ）４本買ってきた。
飲みながらいろいろ話しているとどこかで“ドンドン”とドアをたたくような
音がする。何だろうとあまり気にも掛けずにいるとしばらくして、この部屋の
ドアがノックされる。フロントの女性が口に手を当て“シー！”と言っている。
そうか他の客がうるさいと言っているのか、と納得し、少し抑えながら話を続け
ると、またいつのまにか“ドンドン“と遠くでドアをたたいている。　しょうが
ないからお開きとしたが、、、。
次の日からこのホテルでは私たちに**ビール**（アルコールはビールしか置いてない）
を売ってくれなくなった。
ブルガリアのホテルの壁構造が悪いのか、Ｈ木女史の声の通りが良すぎるのか？

チーズ１

日本人とチーズ、　これって一番**ミスマッチ**　かも。
ブルガリアでは　朝昼晩　毎日　必ず　チーズが出る。
ホテルの朝食にでるチーズは我々があんまり残すものだから、日に日に
小さくなり、３日目くらいには　1/4 くらいになってしまった。
それでも残っている。
お昼のお弁当に入っているチーズ（これがまたでかい）はほとんどギブアップ。
最後のモスクワからの飛行機でもチーズ。　　勘弁して頂戴。
でも、ソフィアのスーパーで買ったお土産は　“チーズ、チーズ、チーズ”
でも、これが結構評判良かったな。　　（量が少ないからでしょう。）

チーズ２

まだ疲れていない前半にて　Ｍの駄洒落をひとつ

“ブルガリアでフライトするのには、ＧＰＳ　いらないね！”

“どうして？”

“だって、そこらじゅう　**チーズ**（地図）だらけだもん。”

最後のスタチン

朝霧到着の静岡組、これで“**ドジネタ**”もおしまい。と思ったが、　どっこい。
自分の車に乗り換え、最終グライド出発と意気込んだが、エンジンがかからない。
どうやら、バッテリーが上がってしまっている。　原因はスモールランプか
室内灯か、いづれにしても遠征初日からでは無理な話。遠征中はスタチンがいい
思いにつながったけど、今回はね！　どうでした？　Ｍさん。
とりあえず、Ｎチャンの車でエンジンかけ、走り出したのはいいけれど、
エンジンが止まってしまうのが怖く、高速回転のまま走っている。
対向車が来たのに減速しない。“早すぎだな！”と後ろからついていくＮチャン
が思っていると“**パチン！！**”と音がして、フェンダーミラー同士が接触。
しかし両運転手、何か後ろめたいことがあるらしく、止まりもせず、走り去った。

西も東も

反省会でドジ集の最終チェック。あれ！西と東が逆になってる。
北を向いて、右は東じゃない。　そうです、そうです、　私が悪いのです。
帰って直ぐ修正します。
も一つ、ダイビングは　５００　じゃなく　５０　ユーロだよ。

最重要報告

さて、番外編で一番重要な報告は、＋１０日間ブルガリアの空気を満喫した
Ｏ部君にしてもらわなければならない。　でしょうね。